



vol.④ 都留文科大学

学生の柔軟な発想と行動力が生む商店街の活性化

都留文科大学社会科学部「環境・コミュニティ創造専攻」の学生たちは、地域課題を研究テーマに設定し、解決策を提案できる能力を養う実践的な学びを深めています。学生たちは今、都留市内「三町商店街」の活性化と人々の交流促進のために、斬新な企画を提案し、地域を元気つけています。

目指すのは、みんなが笑顔でつながる商店街

「人文科学研究Ⅱ人間探求の学問」と位置づけ、地域の教育や文化、福祉の向上のために貢献できる人材を育成している都留文科大学。社会科学部「環境・コミュニティ創造専攻」の学生たちは「プロジェクト研究」授業の一環として地元商店街のイベントに参画。若い力を発揮し活性化に「役買」ついています。

一年次の「フィールド体験」授業で三町商店街を実際に歩き、商店主に話を聞くことで課題を見つけた学生たちは、昨年12月、商店街の皆さんと協力し「三町百縁笑店街」を実現させました。

このイベントでは、各店舗が工夫を凝らした百円の商品に、学生が考案したポップを添えて販売。商店街の多目的スペース「さんちよう亭」では、お楽しみ抽選会や餅つき大会も行い、商店街は多くの買い物客でにぎわいました。

大型店の出店などにより、衰退しつつあった三町商店街。商店主の高齢化も課題となる中で、若者の視点から生み出されるアイデアと行動力、そして新しく生まれた地域の人々との交流が、商店街に活気を取り戻す力となっています。



地域の人々と学生の声が響きわたる三町商店街



(上) 地元生産者から購入した餅米で、餅つき大会
(左) 三町商店街のかわいらしい地図は、地元のランドマークとなっている



店先には、思わず手に取りたくなる百円商品

意欲ある学生たちのつながりが商店街の可能性を広げてくれています



三町商店街振興会事務局長 金巻 裕さん

学生たちが地域に関わってくれるのは、とてもありがたいことです。商店街の役員会に参加する中で、学生も予算などの制約や商店街の問題点に気付き、そこから学び、考えてくれています。人が出会い新しい事を始めると、そこには新しいつながりが生まれ、化学変化が起こるものです。商店街が出会いの場であり続けるためにも、学生たちには、これからも臆することなくチャレンジしてほしいです。



三町商店街振興会会長 秋山 浩さん

三町商店街では毎月13日に「十三(とみ)の市」を行っています。50年以上も抽選会をメインに続けてきました。少々マンネリ化を感じていたところに私たちでは発想できない「百縁笑店街」のアイデアを学生たちが出してくれました。商店街も高齢化が進んでいるので、学生たちの活気は私たちの活力源になっています。

多世代交流の大切さを感じ「百縁笑店街」を提案しました

私の地元、山形県の商店街で「百円商店街」を開催していて、小さい頃よく行きました。楽しい思い出がたくさんあり、都留でもやりたいと思い提案しました。地元にいる時は、おじいちゃんやおばあちゃんと話したり、当たり前のように多世代交流があったのに、大学に入ってから同世代としか関わらず、寂しく感じていました。みんなが笑顔でつながればどの願いを込めて「百縁笑店街」と名付けたこのイベントをきっかけに、地域の皆さんと触れ合えるコミュニティができればいいなと思っています。



企画提案者
社会科学部環境・コミュニティ創造専攻2年
伊藤瑠依さん



交流を深め、学びながら地域をもっと元気にしたい

「フィールド体験」で初めて三町商店街を訪れたのですが、学生の街でありながら、学生の姿は見当たりませんでした。僕らの力で学生が集まる街にしたい。そんな思いから商店街に積極的に関わることになりました。地域に出ていくことで社会を知り、商店街の皆さんと交流を深める中で、僕たちは多くを学ばせていただいています。地域の抱える課題も少しずつ分かってきたので、これからも地域をもっと元気にしていきたいです。



グループリーダー
社会科学部環境・コミュニティ創造専攻3年
石山惲大さん

